

葛飾区保健医療実態調査報告書

平成30年（2018年）3月

葛 飾 区
監修 葛飾区健康医療推進協議会



はじめに

このたび、平成29年7月に実施しました「保健医療実態調査」および「食育（食事）に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、ここにご報告いたします。

生活環境の改善や医療技術の進歩などにより、わが国の平均寿命は世界最高水準となり、高齢者の人口は増加を続けています。また、生活スタイルの変化やインターネットの普及などにより、情報が簡単に手に入る一方で健康に関して不安を抱える人が増えています。

このため、本区の地域特性を踏まえた保健医療行政を推進するために、区民の意識の変化や現状を把握する目的で、区民の健康状態、食生活などの生活習慣や健康づくりの活動について調査を実施いたしました。

今回の調査結果につきましては、すべての区民が健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくりをめざし、区民との協働の視点を大切にした健康づくり計画策定の貴重な資料として活用してまいります。また、関係機関・団体においてもご活用いただければ幸いです。

なお、この調査の実施にあたりましては、調査票の設計から結果の分析・検討にいたるまで「葛飾区健康医療推進協議会」のご監修をいただきました。

終わりに、今回の調査に協力いただきました区民の皆様および小中学生とその保護者の皆様、葛飾区健康医療推進協議会委員の皆様に心から御礼申し上げます。

平成30年3月

葛 飾 区

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	4
4 集計・分析にあたって	4
5 調査回答者の属性	6
II. 区民調査の結果	9
A 健康状態について	11
1 現在の健康状態について	
(1) 主観的健康観	13
2 健康診査の受診について	
(1) 受診した健康診査の種類	15
(1-1) 健康診査を受診しなかった理由	19
(2) 受診したがん検診の種類・がん検診の種別	22
(2-1) がん検診を受診しなかった理由	25
3 かかりつけについて	
(1) かかりつけ医の状況	27
(1-1) かかりつけ医の医療機関	29
(2) かかりつけ歯科医の状況	31
(3) かかりつけ薬局の状況	33
B 健康に関する日頃の行動	35
4 健康づくりについて	
(1) 健康のために心がけていること	37
(2) 「生活活動」の頻度	39
(3) 「運動」の頻度	41
5 食生活について	
(1) 朝食の摂取状況	43
(2) 家族や親しい人と一緒に食事をする頻度	46
(3) 栄養バランスの配慮	48
(3-1) 栄養バランスで気をつけていること	50
(4) 1日の野菜摂取量の目標の認知度	53

目次

(5) 1日の野菜摂取量	55
(6) 1日の食塩摂取量の目標の認知度	57
(7) 減塩のために気をつけていること	59
(8) 外食の頻度	61
(9) 中食の利用頻度	64
(10) 食品表示の利用度	69
(10-1) 食品表示で確認していること	71
(11) よくかんで食事をしているか	73
(12) BMI（肥満指数）区分	76
(13) 高齢者のBMI	79
(14) 食べ残しや食品の廃棄を減らす心がけ	81
(15) 「かつしかの元気食堂」の認知度	83
(15-1) 「かつしかの元気食堂」の利用状況	85
6 休養について	
(1) 睡眠の状況	86
(2) より充実した睡眠のために実行していること	88
(3) 余暇の過ごし方は充実しているか	90
7 こころの健康について	
(1) 悩みやストレスの有無	92
(2) 悩みやストレスの原因	94
(3) 悩みやストレスの相談相手	97
8 地域や社会とのつながり（ソーシャルネットワーク）	
(1) 外出頻度	99
(2) 参加した行事	101
(3) ご近所との関係	104
(4) 親族付き合い	106
C 日常生活などについて	109
9 喫煙について	
(1) 喫煙状況	111
(1-1) 1日の喫煙本数・喫煙歴	114
(1-2) 禁煙の希望状況	118
(2) 副流煙	120

10 飲酒について	
(1) 飲酒状況	123
(1-1) 飲酒量	125
11 歯の健康について	
(1) 歯や歯肉の健康を保つために行っていること	127
(2) 歯科を受診する理由	130
(3) かんで食べる時の状態	132
(4) 食べ方や食事の様子	134
12 健康情報について	
(1) 健康への関心	136
(2) 区からの健康に関する情報の入手方法	138
(3) 保健所が行っている保健サービスで利用したいもの	140
(4) メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム・COPD・フレイルの 認知度	143
13 通院状況について	
(1) 治療が必要な病気の有無	144
(1-1) 医師から診断された病気・現在治療中の病気	145
14 保健医療施策に対する意見・要望（自由記入）	151
Ⅲ. 児童・生徒調査の結果	157
1 平日の就寝時間	159
2 平日の起床時間	160
3 平日の睡眠時間	161
4 朝食の摂取状況	162
4-1 朝食をほとんど食べない理由	163
5 今日の朝食で食べたもの	164
6 朝食を一緒に食べる人	166
7 夕食を一緒に食べる人	167
8 家族全員で夕食を食べる頻度	168
9 夕食で大人と同じおかずを食べる頻度	169
10 家での食事の楽しさ	170
10-1 家での食事が楽しい理由	171
11 食事の時のあいさつ	172

目 次

12	食事の準備や片付けをする頻度	173
13	外食の頻度	174
14	食物アレルギーの認知度	175
14-1	食物アレルギーを引き起こす食べ物	176
IV.	保護者調査の結果	177
1	朝食の摂取状況	179
1-1	朝食で主に食べるもの	180
1-2	朝食を食べないことがあるようになった時期	182
1-3	朝食をほとんど食べない理由	183
2	子どもと一緒に朝食を食べる頻度	184
2-1	子どもと一緒に朝食を食べられない理由	185
3	子どもと一緒に夕食を食べる頻度	186
3-1	子どもと一緒に夕食を食べられない理由	187
4	夕食の献立を子どもの好みや意見で決める頻度	188
5	夕食で子どもと同じおかずを食べる頻度	189
6	栄養のバランス	190
7	家での食事の楽しさ	191
8	食に関して子どもに教えていること	192
9	栄養成分表示の利用度	194
10	食物アレルギーを引き起こす食べ物	195
11	食物アレルギーがあると診断された子どもの有無	196
12	食物アレルギーの原因となる食物を取り除く調理	197
V.	単純集計結果	199
VI.	使用した調査票	235

I . 調査の概要

1 調査の目的

平成30年度に改定を予定する、かつしか健康実現プラン及び葛飾区食育推進計画の基礎資料として、区民意識の現状を把握するためこの調査を実施した。

2 調査の内容

(1) 区民調査

A 健康状態について

- ①現在の健康状態
- ②健康診査の受診
- ③かかりつけ

B 健康に関する日頃の行動

- ④健康づくり
- ⑤食生活
- ⑥休養
- ⑦こころの健康
- ⑧地域や社会とのつながり（ソーシャルネットワーク）

C 日常生活などについて

- ⑨喫煙
- ⑩飲酒
- ⑪歯の健康
- ⑫健康情報
- ⑬通院状況

(2) 児童・生徒調査

- ①平日の就寝時間
- ②平日の起床時間
- ③平日の睡眠時間
- ④朝食の摂取状況・
朝食をほとんど食べない理由
- ⑤今日の朝食で食べたもの
- ⑥朝食を一緒に食べる人
- ⑦夕食を一緒に食べる人
- ⑧家族全員で夕食を食べる頻度
- ⑨夕食で大人と同じおかずを食べる頻度
- ⑩家での食事の楽しさ・家での食事が楽しい理由
- ⑪食事の時のあいさつ
- ⑫食事の準備や片付けをする頻度
- ⑬外食の頻度
- ⑭食物アレルギーの認知度・
食物アレルギーを引き起こす食べ物

(3) 保護者調査

- ①朝食の摂取状況・朝食で主に食べるもの・
朝食を食べないことがあるようになった時期・
朝食をほとんど食べない理由
- ②子どもと一緒に朝食を食べる頻度・
子どもと一緒に朝食を食べられない理由
- ③子どもと一緒に夕食を食べる頻度・
子どもと一緒に夕食を食べられない理由
- ④夕食の献立を子どもの好みや意見で決める頻度
- ⑤夕食で子どもと同じおかずを食べる頻度
- ⑥栄養のバランス
- ⑦家での食事の楽しさ
- ⑧食に関して子どもに教えていること
- ⑨栄養成分表示の利用度
- ⑩食物アレルギーを引き起こす食べ物
- ⑪食物アレルギーがあると診断された
子どもの有無
- ⑫食物アレルギーの原因となる食物を
取り除く調理

3 調査の設計

(1) 区民調査

- ①調査時期 平成29年7月3日～7月21日（7月13日勸奨はがき発送）
- ②調査地域 葛飾区全域
- ③調査対象 葛飾区在住の満20歳以上の男女個人
- ④対象者数 2,400人
- ⑤母集団 葛飾区住民基本台帳
- ⑥抽出方法 等間隔無作為抽出法
- ⑦調査方法 郵送配付・郵送回収法
- ⑧回収結果 有効回収数1,227票、有効回収率51.1%

(2) 児童・生徒調査および保護者調査

- ①調査時期 平成29年7月3日～7月14日
- ②調査地域 葛飾区全域
- ③調査対象 葛飾区立小学校・中学校に通学する小学4年生・中学1年生の児童・生徒とその保護者全員
- ④対象者数 小学4年生とその保護者3,425人 中学1年生とその保護者2,736人
- ⑤調査方法 児童・生徒に対しては、区立小学校・中学校で配付・回収
保護者に対しては、区立小学校・中学校で児童・生徒を通じて配付・回収
- ⑥回収結果

小学4年生	有効回収数3,270票、有効回収率95.5%
小学4年生の保護者	有効回収数3,124票、有効回収率91.2%
中学1年生	有効回収数2,620票、有効回収率95.8%
中学1年生の保護者	有効回収数2,485票、有効回収率90.8%

4 集計・分析にあたって

- (1) 図表中のnは各設問の回答者数であり、比率算出の基数を示す。
- (2) 比率は小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての選択肢の比率を合計しても、100.0%ちょうどにならないことがある。
- (3) 比率は各設問の回答者数を基数（n）として算出した。したがって、複数回答の設問ではすべての選択肢の比率を合計すると通常100%を超える。
- (4) 集計は①単純集計、②属性項目とのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (5) クロス集計の図表では、分析項目にあたる設問で無回答であるものについては、これを表示しない。ただし全体の基数には含めているので、分析項目にあたる設問の各選択肢の回答数を合計しても、全体の基数と一致しないことがある。
- (6) クロス集計の分析では、分析項目の基数（n）が10以下である項目は、他の項目と比較して顕著な傾向を示していても、分析の対象とせず、文章中でもふれていない。
- (7) 経年変化をみるため、本区が平成24年・19年・13年に実施した「保健医療実態調査」、平成26年に実施した「食育（食生活）実態調査」、平成24年・22年に実施した「食育（食事）に関するアンケート」の結果との比較を示した。また、必要に応じて、平成27年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省実施）、平成28年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省実施）、食育に関する意識調査（農林水産省消費・安全局実施）、東京都民の健康・栄養状況（東京都実施）、東京都歯科診療所患者調査（東京都実施）、食生活と食育に関する世論調査（東京都実施）、東京都福祉保健基礎調査（東京都実施）との比較を示した。

表1 経年変化をみた過去の「保健医療実態調査」の調査概要

実施時期	平成13年6月	平成19年6月	平成24年6月
調査対象	区内在住の満20歳以上の男女		
対象者数	2,307人	2,400人	2,400人
有効回収数(有効回収率)	1,328票(57.6%)	1,471票(61.3%)	1,391票(58.0%)

表2 経年変化をみた過去の「食育(食事)に関するアンケート」、「食育(食生活)実態調査」の調査概要

調査名称	食育(食事)に関するアンケート	
実施時期	平成22年4月	平成24年9月
調査対象	区立小・中学校に通学する小学4年生 3,530人、中学1年生2,990人とその保護者	区立小・中学校に通学する小学4年生 3,401人、中学1年生2,901人とその保護者
有効回収数 (有効回収率)	小学4年生 3,484票(98.7%) 中学1年生 2,962票(99.1%) 小学4年生の保護者2,865票(81.2%) 中学1年生の保護者2,419票(80.9%)	小学4年生 3,283票(96.5%) 中学1年生 2,793票(96.3%) 小学4年生の保護者2,784票(81.9%) 中学1年生の保護者2,275票(78.4%)

調査名称	食育(食生活)実態調査	
実施時期	平成22年5月	平成26年9月
調査対象	区内在住の満20歳以上の男女1,700人	①区内在住の満20歳以上の男女1,700人 ②区立小・中学校に通学する小学4年生 3,254人、中学1年生2,910人とその保護者
有効回収数 (有効回収率)	1,158票(68.1%)	満20歳以上 937票(55.1%) 小学4年生 3,158票(97.0%) 中学1年生 2,798票(96.2%) 小学4年生の保護者3,058票(94.0%) 中学1年生の保護者2,549票(87.6%)

(8) 区民調査では、調査対象(本区全体)の一部を抽出する調査(標本調査)を行っているため、調査結果には標本誤差が生じることがある。今回の調査のような単純無作為抽出法を用いる場合の標本誤差(信頼度:95%)は、以下の算出式のとおり求められる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)および②回答の比率(p)によって異なる。

$$(標本誤差) \quad b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数(葛飾区全体)} \\ p = \text{回答の比率} \quad n = \text{比率算出の基数} \end{array}$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、この調査の標本誤差の範囲は、表3に示した標本誤差早見表のように求められる。例えば、ある設問の回答者数が1,227人であり、その設問のある選択肢の回答比率が30.0%であった場合、実際の比率は30.0±2.62%、すなわち27.38~32.62%の範囲にあると推定される。ただし信頼度は95%であるので、この推定は95%の確率で正しいことになる。

表3 標本誤差早見表（信頼度：95%）

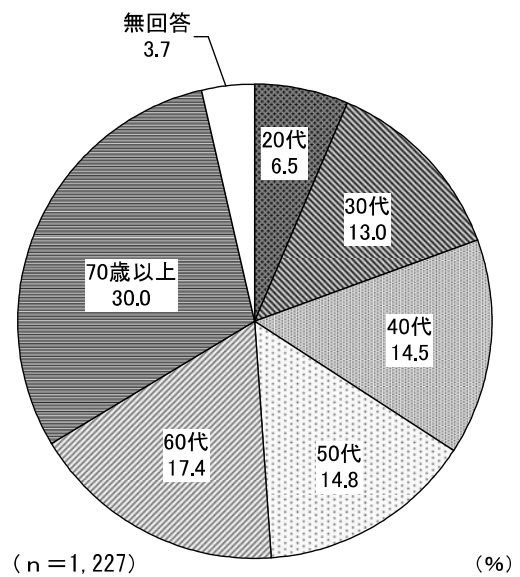
回答の比率(p) 回答者数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,227	± 1.71%	± 2.28%	± 2.62%	± 2.80%	± 2.85%
700	± 2.27%	± 3.02%	± 3.46%	± 3.70%	± 3.78%
500	± 2.68%	± 3.58%	± 4.10%	± 4.38%	± 4.47%
200	± 4.24%	± 5.66%	± 6.48%	± 6.93%	± 7.07%
100	± 6.00%	± 8.00%	± 9.17%	± 9.80%	±10.00%

5 調査回答者の属性

(1) 区民調査

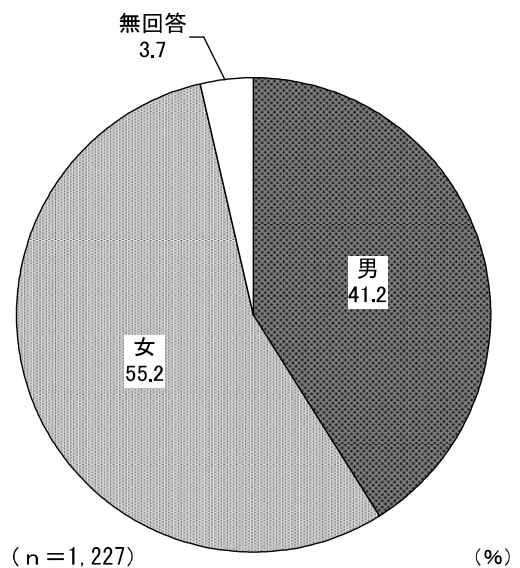
①年代

年代	調査対象人数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
20代	304	80	26.3%
30代	383	160	41.8%
40代	433	178	41.1%
50代	360	182	50.6%
60代	344	214	62.2%
70歳以上	576	368	63.9%
無回答	—	45	—
総計	2,400	1,227	51.1%

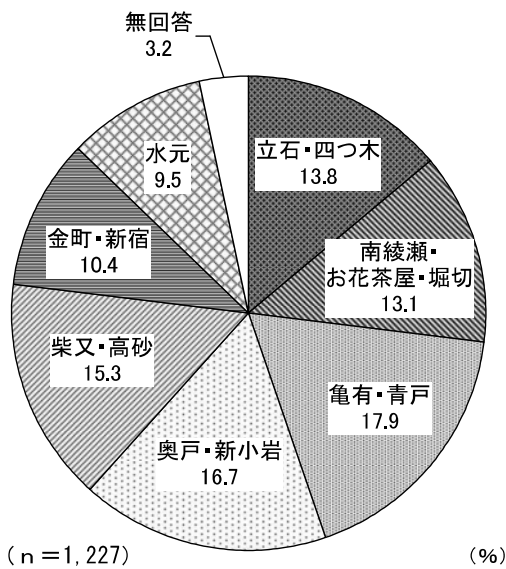


②性別

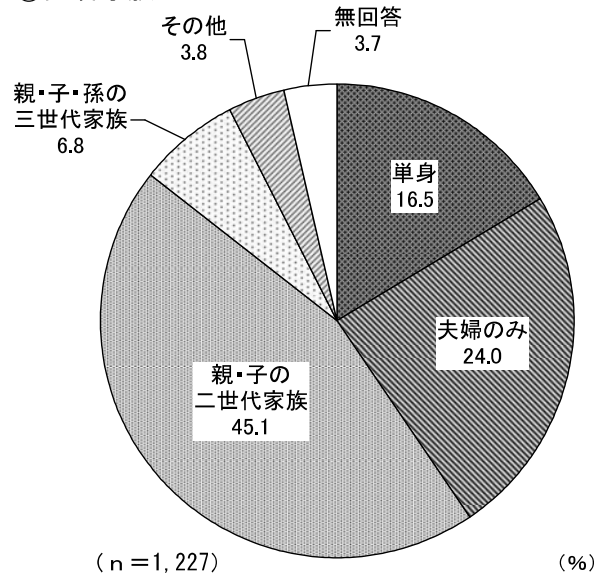
性別	調査対象人数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
男	1,165	505	43.3%
女	1,235	677	54.8%
無回答	—	45	—
総計	2,400	1,227	51.1%



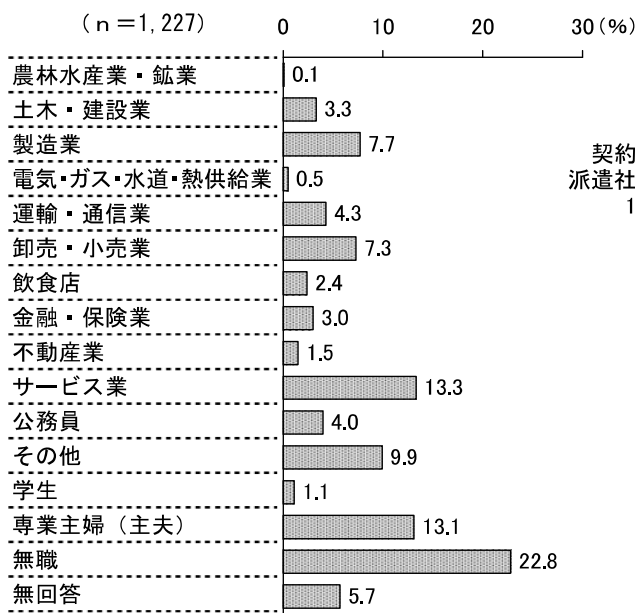
③居住地



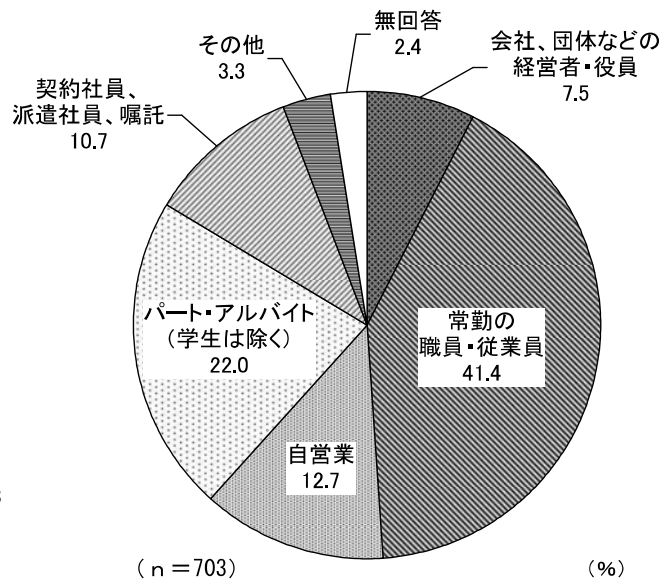
④同居家族



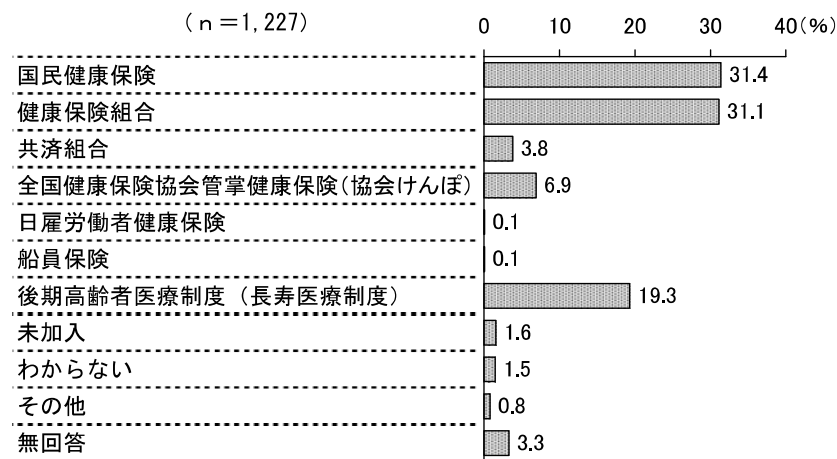
⑤業種



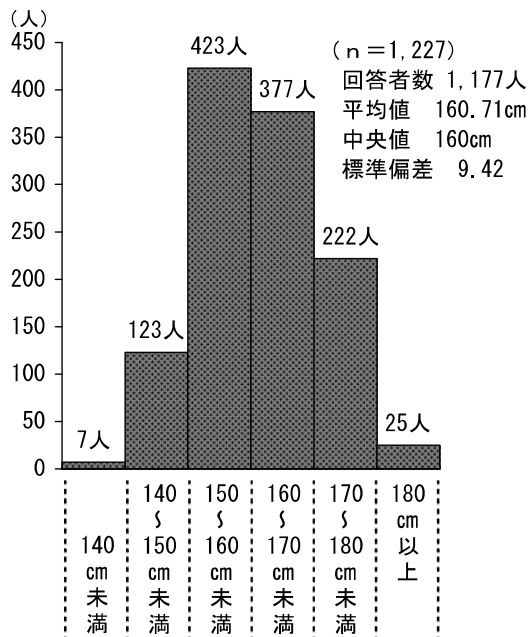
⑥就業形態 (⑤で学生、専業主婦（主夫）、無職と答えた人および無回答者を除く)



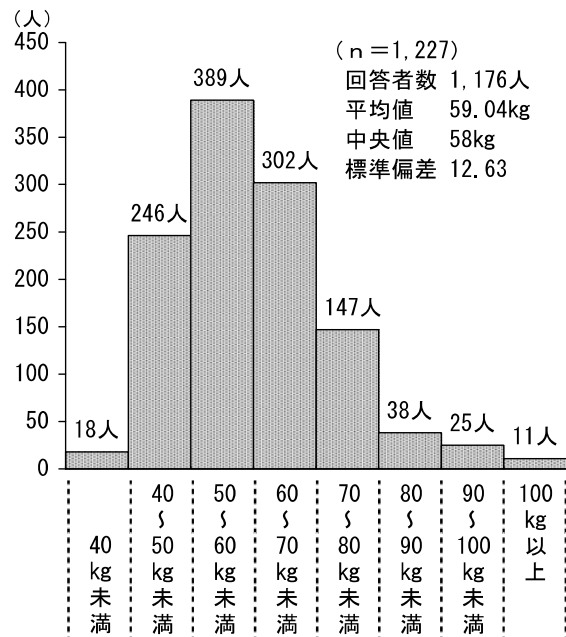
⑦健康保険種別



⑧身長

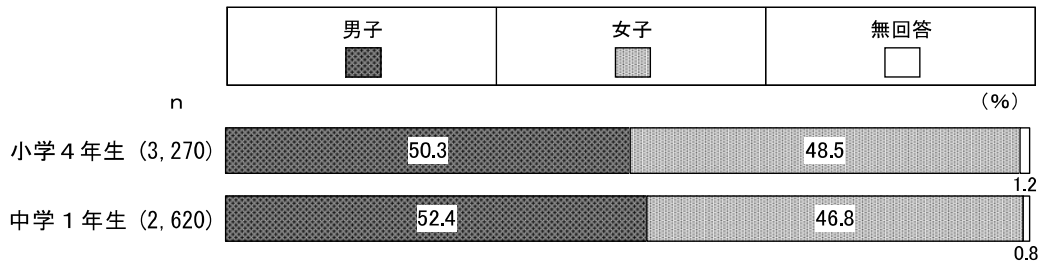


⑨体重



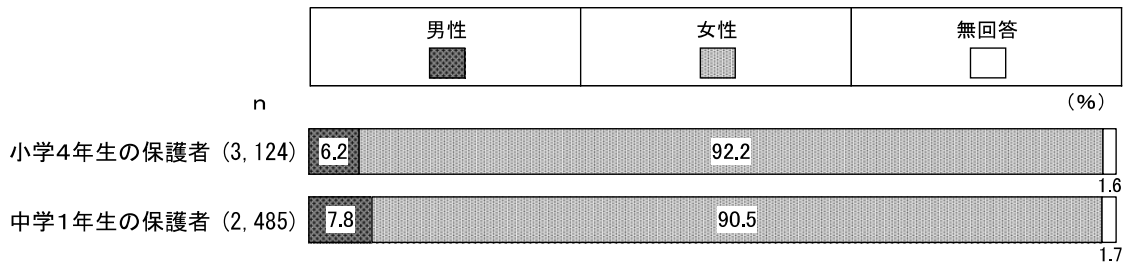
(2) 児童・生徒調査

①性別



(3) 保護者調査

①性別



②年代

